

### ★最新介護医療情報★

#### i P S 心筋移植を実施 重症心臓病患者に 世界初—阪大 (2020.1.27 19時30分)

重症の心臓病患者にさまざまな細胞に変わる人工多能性幹細胞(i P S細胞)から作った心臓の細胞を移植する計画を進めている大阪大のチームは27日、患者に移植して安全性や効果を検証する医師主導治験を実施したと発表した。i P S細胞を使った心筋の移植は世界初。

阪大チームの澤芳樹教授(心臓血管外科)は会見で「助けられない命をたくさん見てきているので、(移植が)一人でも多くの方が助かる医療技術になってほしい」と話した。

移植を受けたのは、心臓の血管が動脈硬化などで詰まり、血液が十分に届かなくなる虚血性心筋症で心不全になった患者。今月手術が行われ、無事終わり、一般病棟に移った。治験は3年間で計10人を対象に実施する。

澤教授らは、健康な人の血液から作ったi P S細胞で直径4~5センチ、厚さ約0.1ミリの心筋細胞シートを作成し、患者の心臓に貼り付けた。シートは消失するが、細胞が出すたんぱく質によって心臓に新たな血管が生え、心機能が回復する効果が期待できるという。今後1年間かけて経過を観察する。

一方、移植する細胞は約1億個と多く、変化し切れないi P S細胞が混ざっていると腫瘍になる恐れがあると指摘されており、安全性を慎重に評価する。阪大チームはこれまで臨床研究を計画し、2018年に厚生労働省の部会で承認も得たが、同年発生の大阪北部地震で実施が遅れ、医療保険適用に向けて治験に切り替えた。今後、5年以内の早期実用化を目指す。i P S細胞を使った治験は国内で2例目となる。

#### 納豆1日1パック、死亡率10%減 9万人を追跡調査 (朝日新聞社 2020.1.30 配信)

納豆やみそなどの発酵性大豆食品をよく食べる人は、そうでない人と比べて10%死亡率が下がるという調査結果を、国立がん研究センターの研究チームがまとめた。

チームは、国内の成人男女約9万人を1995年以降、平均15年間追跡調査した。食事内容を聞き、大豆食品や発酵性大豆食品を食べた量により五つのグループに分類。ほかの食品による影響や、降圧薬を使用しているかなどの影響を取り除いて分析した。

発酵性大豆食品を最も多くとるグループ(1日におよそ50グラム)は、最も少ないグループと比べて男女ともに約10%死亡率が低かった。50グラムとは納豆1パック程度。食品別に見ると、女性では納豆やみそを多くとると、死亡リスクが下がる傾向が顕著だった。

### 地域ルピナス講習会のお知らせ

第39回 忠岡地域リハビリ勉強会  
⇒知っておきたい救急処置の基礎知識  
～高齢者の心疾患～

開催日：令和2年3月13日(金)  
時間：午後6時30分～午後7時30分  
場所：忠岡町文化会館 地下会議室  
講師：ルピナス理学療法士 松浦新吾



第69回 東大阪地域リハビリ勉強会  
⇒理学療法アプローチとリスク管理について  
～パーキンソン病症例を通して～

開催日：令和2年4月16日(木)  
時間：午後6時00分～午後7時00分  
場所：東大阪市立東体育館 第三研修室  
講師：ルピナス理学療法士 井上直大

第28回 城東地域リハビリ勉強会  
⇒認知症予防に向けた運動

開催日：令和2年4月24日(金)  
時間：午後6時30分～午後7時30分  
場所：城東区民センター 小会議室2  
講師：ルピナス理学療法士 武田勇二

